

グリーン購入研修資料

～購入を通して環境負荷を削減するために～

(1) 基礎編

横浜市 環境創造局 環境エネルギー課

平成28年2月

研修資料のねらい

- 横浜市は、平成14年度から、全庁でグリーン購入を実施。
- 平成27年度に実施した全数調査では、グリーン購入調達率が99.97%。
- グリーン購入適合品を見つけられない、グリーン購入の対象品目が分からない等、の課題も。



グリーン購入の基礎と実践方法について
理解を深める

(1) 基礎編

(2) 実務編

1. **グリーン購入とは？**
 2. **横浜市としてできること**
 3. **さまざまな効果**
-

グリーン購入を推進する仕組み（グリーン購入法）

- 環境に配慮した製品やサービスを優先的に購入する仕組みとして、グリーン購入法が2001年（平成13年）から施行されています。
- 地方公共団体は、努力義務となっていますが、調達方針の策定や調達目標の設定とともに、調達の実施が求められています。

1. 努力義務

環境物品等への需要の転換を図るための措置を講ずるよう努める。（第四条）

2. 調達方針の作成

環境物品等の調達の推進を図るための方針を作成するよう努める。（第十条）

3. 調達目標の作成

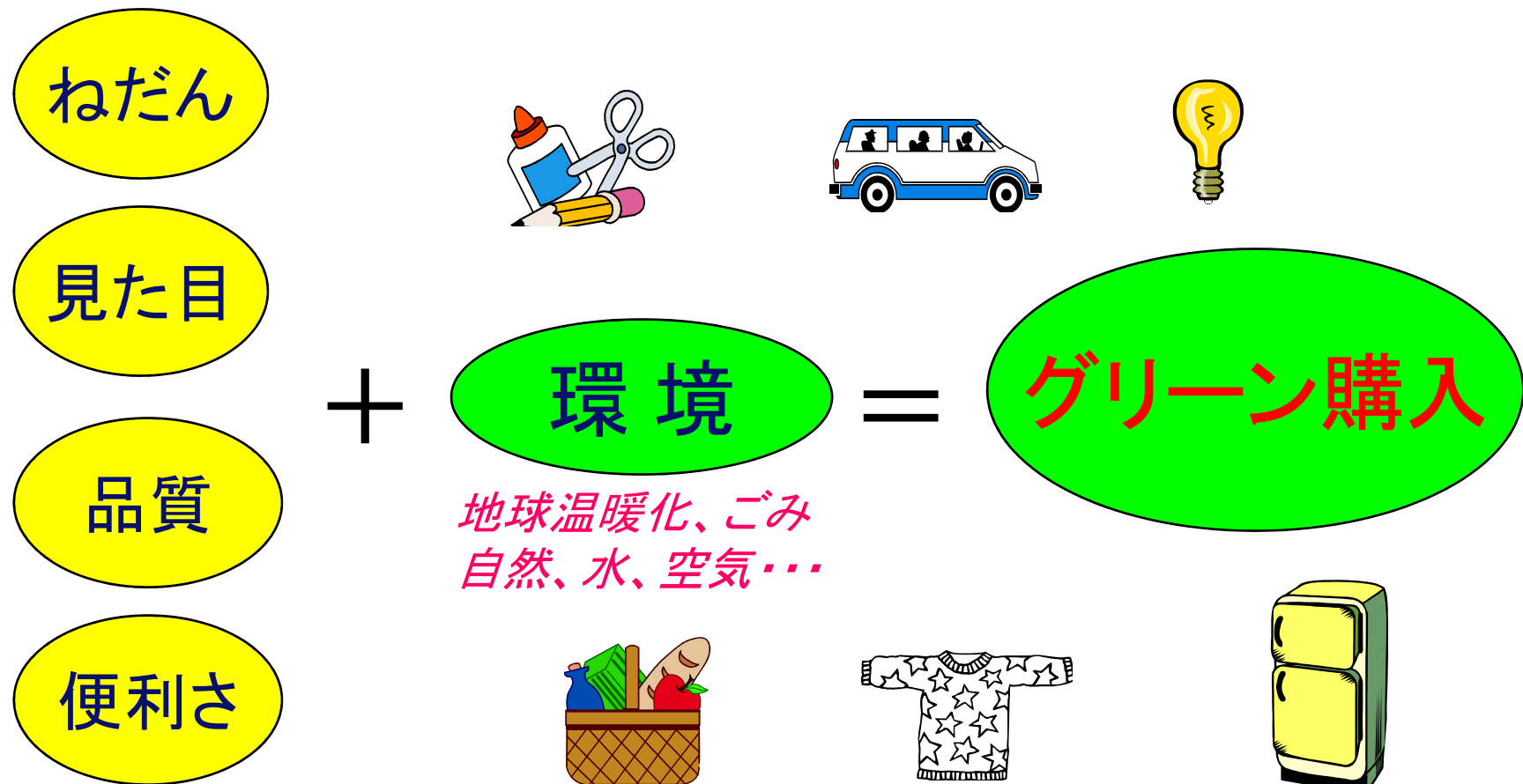
環境物品等の調達の推進を図るための方針を作成するよう努める。（第十条）

4. 調達の実施

当該方針に基づき、当該年度における物品等の調達を行う。（第十条）

ものの選び方を見直す、それが【グリーン購入】

- ものの「使い方」や「捨て方」の工夫に加え、「選び方」を変えることにより、製品製造時や使用時、廃棄時など、ライフサイクル全体の環境負荷削減につながります。
- **値段や品質、便利さに、「環境」という視点を加えた、ものの選び方が「グリーン購入」です。**



毎年早くなっているアース・オーバーシュート・デー

アース・オーバーシュート・デー

人類による地球資源の消費量が、地球が1年に生産できる量を超えてしまった日

➡ 私たちは、約4ヶ月間、将来使う資源を前借りして生活しています。

私たちの家庭生活に置き換えて考えた場合、
4ヶ月を借金で暮らす生活が持続可能でしょうか？



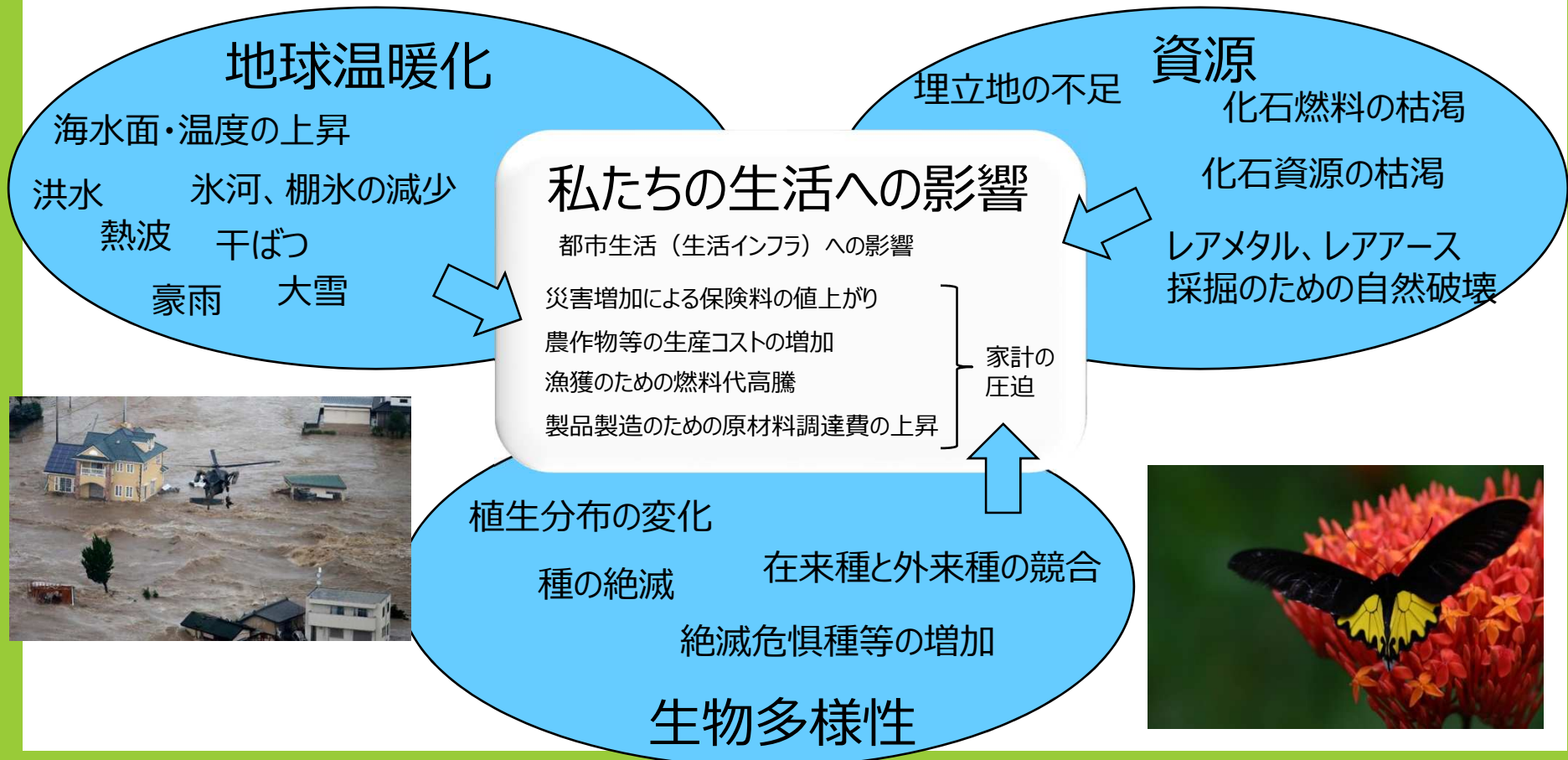
1980年代以降のアース・オーバー・シュート・デー

1986年	12月31日
1995年	11月21日
2010年	8月21日
2013年	8月20日
2015年	8月13日



持続不可能な社会（消費と生産）による影響

- 私たちの暮らし方は、**持続不可能**なものです。私たちのこれまでの社会（消費と生産）のあり方が、地球温暖化や資源枯渇、生物多様性の喪失など、自然環境へ深刻な影響をもたらしています。
- 自然環境への影響は、**しっぺ返し**のように、私たちの生活にも深刻な影響を及ぼし始めています。



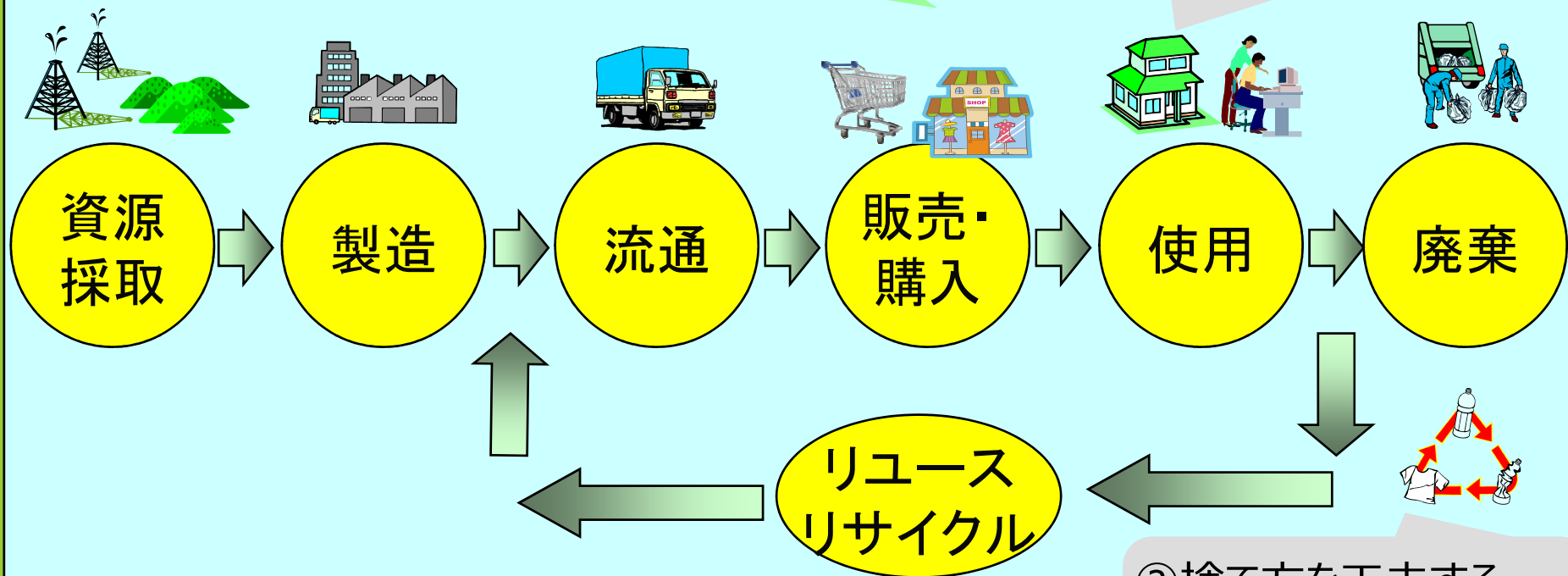
1. グリーン購入とは？
 2. **横浜市としてできること**
 3. **さまざまな効果**
-

（横浜市役所で働く） 私たちに何ができるのか？

- 私たちは、①使い方の工夫や②捨てる方の工夫により、ものを大切に使い、エネルギー消費量やごみの量等を減らすことができます。そして、③**選び方（買い方）を工夫する**ことによって、さらに環境への負荷を減らすことができます。

③選び方（買い方） を工夫する

- ①使い方を工夫する
- ・節電・節水
 - ・長く（上手に）使う



- ②捨てる方を工夫する
- ・リユース
 - ・**ごみ**の分別・リサイクル

選び方を変えることによる効果（製造時の省エネ）

- 私たちが毎日、口にする「水」。環境負荷の小さい「水」とは、どんな水でしょうか。
- ミネラルウォーターは採水地からの輸送やボトルの製造・充填・冷蔵等により、私たちが口にするまでの間に、多くのエネルギーを消費しています。
- 「水」は私たちが消費する際にエネルギーを消費しないため、地球温暖化とのつながりは見えにくいですが、「水」の選び方（買い方）を変えることで、大きな効果が得られます。

ミネラルウォーター（国産）

500ml

183g-CO₂



ミネラルウォーター（外国産）

500ml

239g-CO₂



水道水

500ml

0.169g-CO₂

選び方を変えることによる効果（使用時の省エネ）

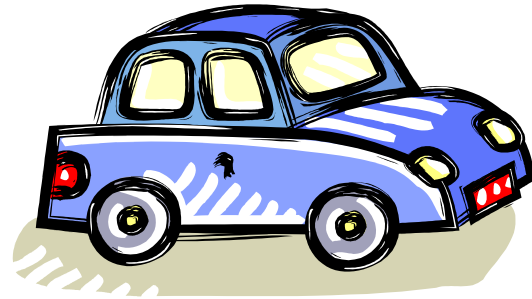
- 私たちの生活に欠かせない「自動車」。走行時に排出されるCO₂は、自動車のライフサイクル全体で排出されるCO₂の60～80%を占めることから、エコドライブ（走行時の環境配慮）が大切です。
- しかし、走行時にエコドライブをしても限界があります。より効果的に走行時のCO₂を削減するには、そもそも燃費のよい自動車を選択することが大切なのです。

A車

1,800cc

燃費38.0km/l

205万円～

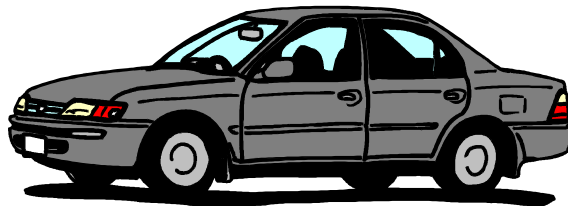


B車

1,300cc

燃費30.0km/l

189万円～

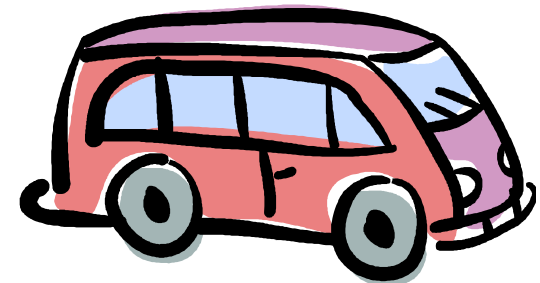


C車

1,300cc

燃費18.0km/l

99.9万円～



選び方を変えることによる効果（廃棄時のごみ削減）

- マーキングペンやボールペン、テープのりや修正テープなど、文具にも詰替品が多くあります。
- 毎回本体を購入するよりも、詰替品を購入することで、本体を長く使え、廃棄するごみの量も削減できます。また、詰替品の購入は、コスト削減にもつながります。



蛍光ペンA

本体：157円

カートリッジ：84円（2本組）



蛍光ペンB

本体：105円

インキ：367円

10本分チャージ可能



インキを補充できない

蛍光ペンC

本体：105円程度

グリーン購入基本原則（グリーン購入の基本的な考え方）

<グリーン購入とは>

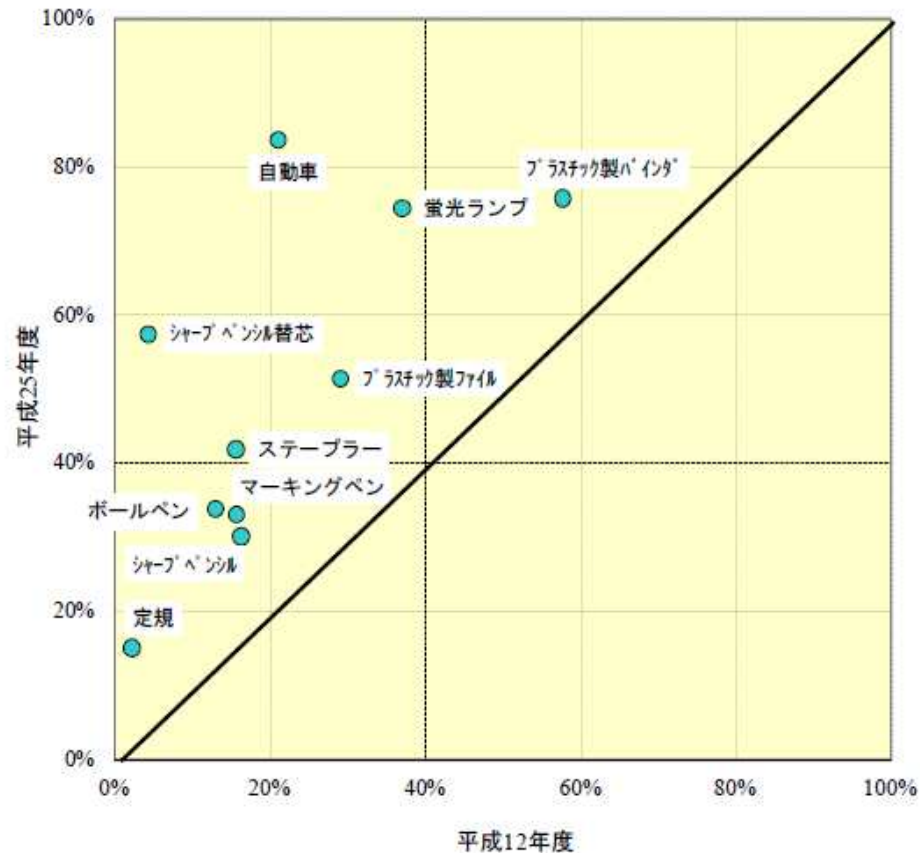
購入の必要性を十分に考慮し、
品質や価格だけでなく環境のことを考え、
環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを
環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入すること

1. **必要性の考慮**（買う前に、ほんとうに必要かどうか考えよう）
2. **製品・サービスのライフサイクルの考慮**
（環境にやさしいモノを選ぼう）
3. **事業者の取り組みの考慮**（環境にやさしい企業から買おう）
4. **環境情報の入手・活用**（環境情報をよく見て買おう）

1. グリーン購入とは？
 2. 横浜市としてできること
 3. **さまざまな効果**
-

グリーン購入の取り組みによる市場占有率の変化

- グリーン購入は、**市場を環境配慮型へ誘導**することができます。
- グリーン購入法の施行前後（平成12年度と平成25年度）の市場占有率の変化をみると、自動車（20%から80%強）や蛍光ランプ（40%弱から80%弱）など、多くの品目で市場占有率の増加が確認できています。



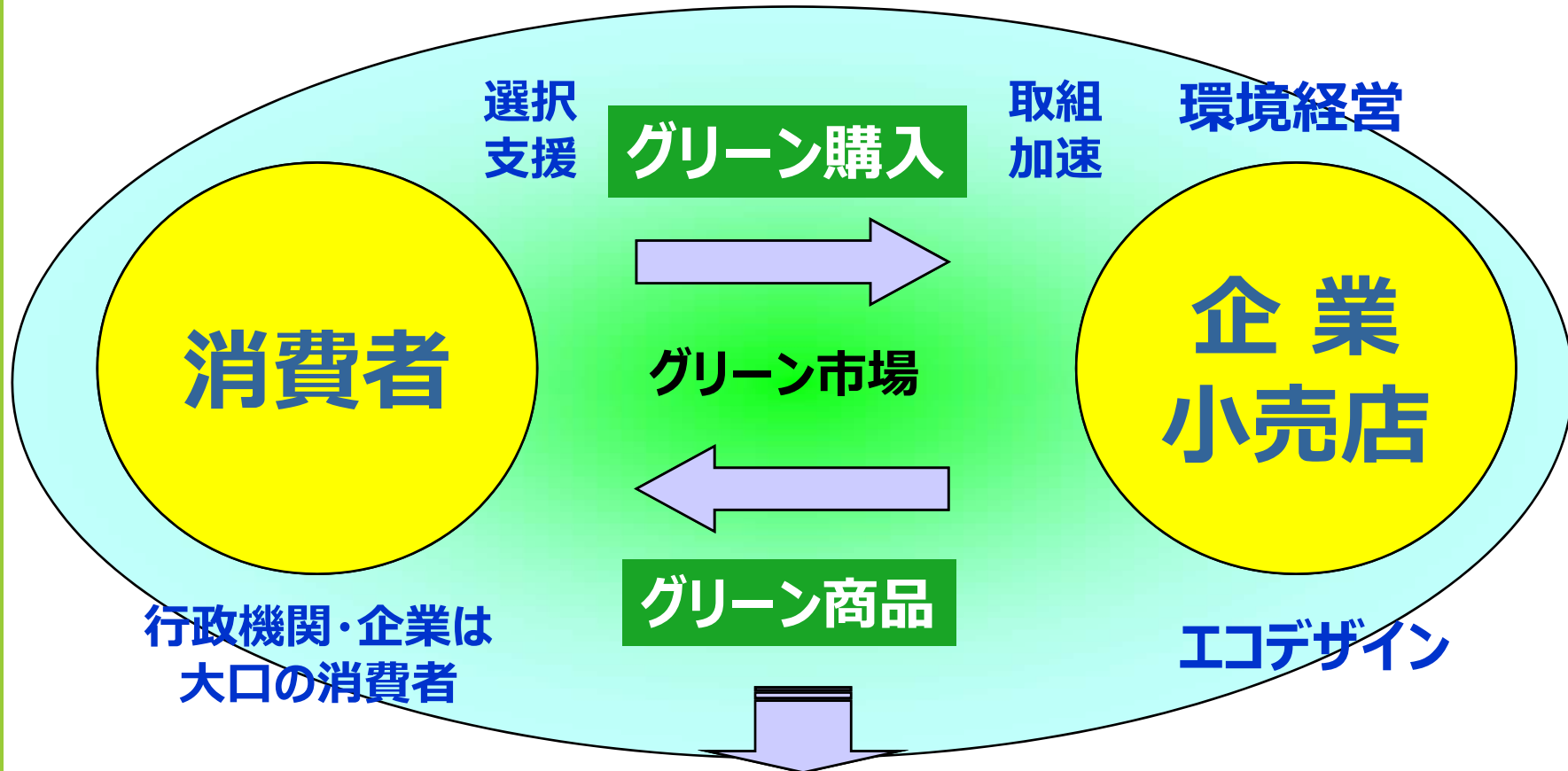
グリーン購入の意義と役割

- 私たち購入者が、環境に配慮した製品を優先して選ぶことにより、CO2排出量やゴミの量を削減するだけでなく、それらを製造し、販売する**事業者を応援**することにつながります。
- たった一人がグリーン購入しても、製造事業者や販売店は変わりません。私たちみんながグリーン購入を実践することで、販売店や製造事業者に購入者としての「意思」を伝えることができ、**市場を環境配慮へ誘導**することができます。
- 地域では、地方公共団体の購入が、地域経済や事業者・市民へ与える効果は大きく、**地方公共団体が積極的にグリーン購入に取り組むことにより、事業者の環境配慮が促され、環境配慮型製品が購入しやすい環境の整備にも貢献します。**



グリーン購入が企業を動かし、社会を変える

市場を通して 企業・小売店の環境経営・商品開発を促進する



環境と経済の両立・持続可能な経済社会を構築